

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念および当グループホーム独自の理念をホーム内に掲示し、毎朝、復唱している。理念体言のための部署目標とそれに沿った職員の個人目標を毎年設定し目標管理を実施している。	職員がより一層共有しやすいよう、平成22年度、理念をよりわかりやすい表現とした。その理念をもとに、年間の部署目標や職員の個人目標、月毎の目標を立てて、理念の共有と実践に向けて積極的に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭などへは毎年参加している。また事業所内で企画した行事は地域住民の方に声かけし行事への参加を促している。	地域行事へ積極的に参加するとともに、事業所で行う行事に地域住民を招いたり、地域向けに認知症理解のための研修会を開催するなど双方向での交流に取り組んでいる。また、隣接する学童保育施設の児童との交流やボランティアの受入を積極的に進めるなど、地域との交流が盛んである。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民を対象とした認知症勉強会に参加し、認知症の啓発や介護支援を行っている。今後の取り組みとして地域の方に向けた勉強会を実施する予定。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、いただいたご意見や要望を取り入れるようつとめている。	会議では、事業所の活動報告や、運営についての話し合いが持たれている。全ての家族に呼びかけているため家族の参加も多く、会議での意見や要望をサービス向上に活かしている。また、自治会長や民生委員が会議に参加しており、地域の声を聞いたり、地域へ発信する機会にもなっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催する会議や委員会に参加している。又、運営推進会議にも参加して頂いている為、定期的に情報を収集できている。市が主催した健康福祉まつりに毎年参加し、施設紹介を行った。	地域包括支援センター職員(市職員)とは、定期的に関行される地域包括ケア会議や事業所の運営推進会議等で意見や情報交換を行っている。また、日常的にも適宜、報告や相談を行っており、連携が取られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。職員全員を対象とした勉強会を9月に開催し理解を深めている。日々のミーティングで身体拘束についての話し合いを持ち情報交換・情報共有につとめている。	法人で設けている「虐待防止・身体拘束廃止委員会」での事例検討や事業所での勉強会等を通して、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。言葉による拘束にも注意を払い、気になる言葉かけがあれば、その日のうちにミーティングで振り返り、見直すように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『虐待防止・身体拘束廃止委員会』の活動を中心に勉強会や情報交換の機会を持ち啓発につとめている。	法人で設けている「虐待防止・身体拘束廃止委員会」での事例検討や事業所での勉強会等を通して、関連法について周知を図り、虐待を行わないケアを徹底している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度の勉強会を開催し制度の啓発や知識の向上につとめている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	懇切丁寧な説明につとめ、契約締結後も不安や疑問点などの対応ができるよう配慮している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	『意見箱』を設置しひろく意見を求め、内容については運営に反映するようつとめている。	法人として毎年、家族全員を対象に「顧客満足度アンケート」を実施し、そこでの意見や要望を運営へ反映するよう努めている。意見等の検討結果も公表している。また、家族の面会時や介護計画の更新時など、機会がある度に意見等を聞き取り、サービスに反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや定期開催の部署・ユニット会議等で職員に参加をしてもらい、出された意見や提案を運営に反映させている。	毎月、事業所全体及びユニット毎に会議を開き、意見や提案をサービスに反映させている。半期に一度、職員への個別面談も行い意見等の吸い上げに取り組んでいる。また、毎年、法人で職員アンケートを実施し、意見や要望を運営に反映させるよう努め、検討結果の公表もしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期定期に職員と個別に面接し目標の進捗や自己の課題、労働上の問題点や課題を確認し、意欲的に働くことができるよう配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職責別で法人が主催する内部研修への参加や力量を考慮して上での外部研修および内部研修へ参加させ、参加後は研修報告をもって評価している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「深雪の言葉かけスローガン」をかけたが、プライバシーを著しく傷つけないよう普段から職員で気をつけるようにつとめている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が思い思いの言葉で希望や要望を言えるよう日々対話をし、できる限り自己決定ができような話しをこころがけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎日の日課や業務をただすすめるのではなく、入居者お一人おひとりの状況や体調を考慮し、その方のペースに合わせた生活がおくれるよう支援するようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議で入居の意向や主訴を伺い今必要な支援を見極め、対応できるようつとめている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中では職員と入居者という位置づけではなく家事の分担をし役割を持って生活できるよう働きかけ、共に暮らす関係性を構築できるようつとめている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に生活の様子を「おたより」にし、写真を添えてお知らせし、電話などでも暮らしぶりや近況の報告をしたり、またご家族の様子を伺い、家族と職員とのコミュニケーションをはかるようにしている。	毎月、健康状態や生活の様子をお知らせする「おたより」を家族に送り、電話でも随時連絡を取っている。また、運営推進会議や各種行事など様々な機会を通じて、本人と家族が一緒に時間を過ごせるよう取り組んでいる。家族が遠方の場合、本人と共にこまめに電話するなど交流を支援している。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前に利用されていたデイサービスに出向き友人たちと交流を持てるよう時間をつくったり、なじみ美容室を利用できるよう支援している。	入居前に併設デイサービスを利用していた方も多く、相互に行き来して関係継続を支援している。昔の仲間が定期的に面会に来る利用者もいる。また、昔馴染みの商店街に買い物に出かけたり、行きつけの美容室に通ったりと、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人おひとりの生活の様子や対人関係について職員間で情報共有し、孤立することのないよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もお便りや電話等で近況を伺い、その後のご本人やご家族の暮らしぶりを伺うようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や家族からの情報、職員の気づきをアセスメントに追記したり、日誌に記録し、本人の意向を把握するようにしている。	センター方式のアセスメントを活用し、利用者との日々の関わりの中で見聞きし、感じとった思いや意向を随時記録して、職員間で共有している。また、モニタリングの際に情報を整理・確認し、本人の意向に沿った介護計画の作成につなげている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居決定後家族をはじめ担当のケアマネジャーに在宅での暮らしやサービスの利用状況など聞き取りをさせていただき在宅での生活の様子を把握するようにしている。	利用開始時はもちろん、入居後も、生活を送る中で把握しきれていない習慣や嗜好があれば、その都度家族に相談し、情報を得ている。特に必要と思われる事柄については、書面にて家族に情報提供をお願いして把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を職員で観察し、ミーティング等で共有し把握につとめるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を使用し、ご本人の思いに耳を傾け意見や要望を反映させるよう配慮しながら介護計画書を作成するようにしている。	日々の関わりで把握した情報を基にあらためて家族の意向等を確認し、本人出席のもとサービス担当者会議で話し合いを行い介護計画を作成している。3ヶ月毎に見直しを行い、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を「生活記録」や日誌に記録するようにしている。またその日にあったことや気付いたことなどは毎日のミーティングで情報共有し介護計画書に活かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日のミーティングや部署会議、ユニット会議で職員が意見を出し合い新たなサービスの方法を話し合っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しみのもてる地域行事へは積極的に参加できるよう職員が声かけや実際の参加への支援を行っている。運営推進会議でも行政や地域の方から参加していただき地域資源の情報を得ようつとめている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、入居前からのかかりつけ医や主治医を継続するようにしている。また受診介助を通じて医療機関との関係構築をはかるようにしている。	本人や家族の意向を踏まえ、基本的に入居前からのかかりつけ医を継続している。職員が受診に付き添ったり、往診を受けたり、かかりつけ医と連携を図りながら、状況に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の定期観察日には全ての入居者の状態観察を行ってもらい、生活でのアドバイスや受診への助言もうけている。また日々看護師と連携し入居者の状態について情報共有している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族や医療機関と連絡をとりあい、現状や回復の状況を確認するようにしている。また家族へは不安や心配事がないか伺い早期に退院できるよう、退院がスムーズにすすめられるよう関係作りをおこなっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた施設の方針を説明し理解と同意を得るようにしている。また運営推進会議等でも施設の方針を説明し地域の方や行政の方にも理解を得られるようつとめている。	契約時に事業所の方針について説明し、事業所で出来ること、出来ないことや緊急時の対応について、随時説明や確認を行っている。また、事業所で対応が困難となった場合の移行の支援についても、随時話し合いを行い、主治医や法人の他施設とも連携して取り組んでいる。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習に参加をし技術を習得するようつとめている。また部署会議やミーティングでマニュアルの確認をしたり、情報交換をしている。	職員は、定期的に救命救急や応急手当について学ぶ機会を持っている。会議やミーティングの場でも随時、対応方法を確認している。また、併設施設の看護師から、簡易な応急処置について学ぶ機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を行っている。またその際、地域の防災組織や民生委員、町内会の方も参加をしていただき地域とも協力体制を構築している。	夜間想定も含め、定期的に避難訓練を実施しており、地域の自主防災組織や自治会、民生委員の参加協力もある。また、緊急連絡網に自治会長や役員も登録されており、非常災害時に地域の協力が得られる体制となっている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「深雪の言葉かけスローガン」をかかげ、プライバシーを著しく傷つけることがないように普段から職員で気をつけるようにつとめている。	法人として新入職員に対しての接遇研修に重点を置き、現任者の研修も定期的を実施している。また、法人内のグループホーム会議の場でも話し合いを持つなど、個人の尊重とプライバシーの保護に取り組んでいる。	利用者への言葉かけや接遇について、やや丁寧さに欠けているところが見受けられた。職員全員で問題意識を共有して改善に努めているところであり、今後の取り組みを期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が思い思いの言葉で希望や要望を言えるよう日々対話をし、できる限り自己決定ができような話しをこころがけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課や業務をただすすめるのではなく、入居者お一人おひとりの状況や体調を考慮し、その方のペースに合わせた生活がおくれるよう支援するようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今日着る衣類や外出時の服装はご自分で選んでいただくよう支援している。着衣の整えなどはさりげなく行うよう配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や調理を担当職員が毎日調理している。調理や家事が得意な方には積極的に調理に関わってもらい、時にはホーム全体で下ごしらえを行うこともあり、入居者と職員が準備や片付けを共同している。	調理や盛り付け、食事、片付けまで、利用者の力を活かして楽しみながら一緒に行っている。職員が漬物や郷土料理などを利用者教わること多く、挑戦して利用者評価してもらおう、といったことも日常的に行われている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病状に合わせた食形態をとり、栄養状況は定期的に管理栄養士の指導を受け献立を作成するようにしている。水分摂取量を毎日把握し、職員間で状態の共有につとめ支援するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し口腔内の清潔と誤嚥予防を行っている。自立の状態に応じて口腔ケアを介助を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄状況に応じて声かけ、誘導を行い、できる限りトイレで排泄できるよう支援し、夜間、間に合わない方に対しては居室にポータブルトイレを用意し排泄をしてもらい、オムツに頼らない支援をこころがけている。	24時間の排泄状況を確認し、一人ひとりの排泄パターンに合わせて声かけやトイレへの誘導を行っている。必要以上に紙オムツ等を使用することなく、夜間も含めて出来る限りトイレで排泄できるように取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日定時に体操や運動を取り入れたり、排便が促進される食べ物を摂取していただくなど自然な排便促せるよう支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴も可能とし、できる限り入居者の希望に添った時間で入浴できるようにしている。また自立度に応じて職員が介助を行うようにしている。	一番風呂を好む方や夕食前に入る方など、一人ひとりの好みや習慣に合わせて入浴できるよう支援している。現在夜間入浴の希望はないが、希望があれば対応も可能である。入浴を拒む方に対しては、声かけやタイミングを工夫し、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が安心して眠れるよう空調や照明、騒音等に気をつけ対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服のケースに薬の名称や用法および用量を添付し理解しやすいよう工夫している。また看護師と内服の情報交換をし目的や副作用を理解するようつとめている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴や得意なことを普段の会話や家族のお話から伺い、その方に合った気分転換の方法を職員で支援できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>外出希望のある方や訴えがない方であっても随時外出できるよう行事の企画をたて希望に添えるよう取り組んでいる。入居以前からの病院への受診も職員が定期的に付き添い出かける機会をもつようにつとめている。</p>	<p>事業所周辺を散歩したり、近くの商店街へ買い物に出かけるなど、日常的に外出する機会を設けている。また、昔よく行った場所やおいしいお店など、日々の会話の中で出た利用者の声を大切にしてい外出計画を立てたり、季節の行事や外食、地域の催し物への参加など、積極的に外出を支援している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者本人や家族の希望により金銭の管理や所持をしていただいている。また買い物に出かけ自身の財布から支払いをしていただくことができるよう支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者の希望時は電話を使用できるようにしている。また希望によっては家族や親戚などからの電話の取次ぎも行っている。手紙のやり取りも自由にできるようにしている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂や居間、座敷には季節ごとに花飾りや装飾を取り入れ季節感を取り入れるようにしている。またトイレや浴室は表示を見える高さに設置し場所をわかりやすくしている。</p>	<p>食堂や居間に隣接してサンルームやバルコニーがあり、明るく開放的な環境である。随所に適度な装飾を取り入れており、外出時の写真や事業所で作った作品、贈り物の干羽鶴なども飾られ場を和ませている。また、食堂に直面してキッチンがあり、調理の様子が伺え、家庭的な雰囲気である。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者や職員がお互いに交流ができるようユニットの間に「サンルーム」を設けている。入居者が思い思いに過ごせるようソファを設置し居場所の工夫をしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内でもタンス等の使い慣れた家具を持ち込んでいただくようにしている。また空調管理や温湿度管理を随時行い快適に過ごしていただけるよう配慮している。</p>	<p>入居前の住環境を家族に確認したり、どんな部屋づくりをしたいか本人と相談しながら、一人ひとりの好みに合わせた環境づくりに取り組んでいる。利用者はそれぞれ、テレビや家具類、化粧道具や本、家族の写真など、思い思いの物を持ち込んでいる。温度や湿度にも気を配り、清掃も行き届いている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの居室に出入り口に手作りの飾りを掛け、ご自分の部屋がわかりやすいよう配慮している。</p>		